

第44回兵庫県ラグビースクール大会実施要項

- 1.主催・主管 主催：（一社）兵庫県ラグビーフットボール協会 主管：兵庫県ラグビースクール連盟
- 2.期日・会場 2026年11月8日（日） 神戸総合運動公園 ユニバー記念競技場、補助競技場
15日（日）、22日（日）、29日（日） 三木総合防災公園
- 3.参加資格 兵庫県ラグビーフットボール協会に登録しているラグビースクール在籍者、及び主催者が認めたチーム在籍者。（参加チームはスクール単位を基本とするが、参加定員に満たない場合は合同チームでも可とする。）同チームで1学年下の在籍者の参加は単独チームとして認める。但し、小学2年が小学3年生の試合への出場は認められない。
- 4.チーム構成
 - ・幼児、1年生、2年生…5人 ※タグラグビー
 - ・3年生、4年生…7人
 - ・5年生、6年生…9人
- 5.組み合わせ
 - ・3年生～5年生はトーナメント戦を行い、優勝、準優勝、第三位を決定する。
 - ・6年生は4グループに分けトーナメント戦を行い、更にそのトーナメント戦の1、2位3～5位で更にトーナメント戦を行い、優勝、準優勝、第三位、敢闘賞を決定する。
 - ・幼児、1、2年生はタグラグビー、ガールズマッチはエキシビジョンマッチを行う。
- 6.競技規則 RUGBY UNION競技規則（ワールドラグビー）及び（公財）日本ラグビーフットボール協会発行のタグラグビー、U-12ミニラグビー競技規則に準ずる。
- 7.競技時間
 - ・幼児…5分ハーフ（タグ）
 - ・1年生、2年生…7分ハーフ（タグ）
 - ・3年生、4年生…12分ハーフ
 - ・5年生、6年生…13分ハーフ1日の試合時間の合計はU-10（3、4年生）計50分、U-12（5、6年生）計60分以内とする。
- 8.表彰 3年生以上の各学年毎に優勝チームには優勝カップ、準優勝チームには準優勝盾、第三位チームには第三位表記の盾を与える。優勝カップ、盾等は次回大会まで表彰チームの責任において保管する。但し、両チームが同位表彰の場合は、当該チーム同士で保管場所、期間を話し合い決定する事。
- 9.運営規則
 - ①試合はトライ数の多寡によってその勝敗を決し、コンバージョンは行わない。
 - ②試合が同点の場合は、大会本部において、レフリー立ち合いの上、抽選により次回戦進出チームを決定する。
 - ③決勝戦において同点の場合は、両者優勝とする。また三位決定戦も同様とする。
 - ④選手交代は、負傷交代を除いて、前半、後半の中ほどの時間（レフリーが認めた時）ハーフタイム、3回の選手交代を認める。それ以外に行う事は出来ない。一度退出した選手の再度の入場は認めない。但し、負傷が生じた場合で交代選手がいなかった場合に限りその負傷した選手と交代してプレーする事は妨げられない。1選手の1日トータル試合出場時間については、日本協会ルールを遵守する事。タグラグビーは競技規則に準ずる。
 - ⑤試合開始時点でメンバーが揃わない場合は不戦敗とする。（但し、相手チームの同意を得て、同人数で練習ゲームを行う事は可とする。）
 - ⑥試合中、指導者、控え選手は指定場所にて待機し、過度の応援や叱咤、相手チームに対する野次、レフリーに対するクレーム等は厳に慎む事。
 - ⑦怪我等については応急処置は行うが、その後は保護者とチームの責任において治療処置を行う事。
 - ⑧敗戦者については組み合わせ表に基づき、試合を行うものとする。
 - ⑨負傷、出血による一時交代は3分以内とする。過ぎた場合はコーチに確認の上、正式に交代とする。ハーフタイム以降も戻れないものとする。但し、人数が足りない場合はその限りではない。
 - ⑩シンビンによる退場時間は、試合時間の3分とする。
 - ⑪コーチが、インカムやスマートフォンを試合会場に持ち込み外部の別にコーチに指示を与え、試合会場外から試合会場の選手に指示する行為を禁止する。

大会式次第

開会式・ミニラグビー6年生グループトーナメント戦

11月8日（日） 神戸総合運動公園

午前9時45分 開会式 ユニバー記念競技場

開会宣言	副理事長 森山 浩二
会長挨拶	会長 遠藤 哲和
ご来賓挨拶	(一社)兵庫県ラグビーフットボール協会会長 田中 康憲 兵庫ダイハツ販売株式会社 代表取締役社長 和田 良平
前年度優勝カップ・準優勝盾返還	理事長 鈴木 啓成
選手宣誓	芦屋ラグビースクール6年キャプテン 澤田 政茂（さわだ まさしげ）
ラグビーボール贈呈式	兵庫ダイハツ販売株式会社 代表取締役社長 和田 良平 芦屋ラグビースクール6年生キャプテン 澤田 政茂

午前11時 試合開始 4グループトーナメント戦

タグラグビー

11月15日（日） 三木総合防災公園 第2陸上競技場、第2、3球技場

午前10時 試合開始 幼児、1年生、2年生

ミニラグビー

11月22日（日） 三木総合防災公園 第1、2陸上競技場、第1、2球技場

午前10時 試合開始 3～6年生

ミニラグビー・ガールズ戦・閉会式

11月29日（日） 三木総合防災公園 第1、2球技場

午前10時 試合開始 3～6年生・ガールズ戦

午後2時目途 第3球技場

優勝・準優勝・三位・※ボウルトーナメント優勝表彰 会長 遠藤哲和

閉会挨拶 理事長 鈴木啓成

※注:新設のボウルトーナメント優勝は6年生（3～5位カップトーナメント優勝に対して）を対象としています。

大会役員

大会顧問	田中 康憲（県協会会長） 岩田 哲也（県協会理事長） 中村 孝治（県連盟会計監査）
大会会長	遠藤 哲和（県連盟会長）
大会委員長	鈴木 啓成（県連盟理事長）
大会副委員長	平塚 真二（県連盟副会長） 森山 浩二（県連盟副理事長） 竹内 文幸（県連盟副理事長）
大会委員	原田 聡 小野 淑彰 古田 貴美子 大西 純美 真嶋寛育 石井正志 石田凌一 木本雅文 吉田純一 大北洋二 小林大将 （県連盟総務委員）
レフリー委員長	大口 典寿（県連盟レフリー委員会委員長）
大会実行委員長	岡崎 隆望（県連盟総務委員）
大会実行副委員長	百合野 慶太（県連盟総務委員） 片山 光正（県連盟総務委員） 荒瀬 俊彦（県連盟総務委員） 有田 哲也（県連盟総務委員）

大会実行委員

	（タグ担当）	（中学年担当）	（高学年担当）		（タグ担当）	（中学年担当）	（高学年担当）
明石JRC	今井須美子	坂本佳喜	松田/根木	芦屋JRC	片村/中村	柏谷/奥田	赤嶺/蒲池/壺井
尼崎RS	川口進	菊川/前地	小林/古藺	神戸伊川RS	平井博道	池辺豊	伊與弘三
伊丹RS	伏見/渡邊	石橋一樹	佐々木信哉	加古川RS	安達/松浦	柴田多加博	大石/加藤
川西市RS	堤智史	棕木真	田原一暁	北神戸RC	牧野友規	杉谷哲也	野崎通
甲子園CRC	坂田文雄	刀禰和隆	森田真嗣	神戸少年RC	田中/塩津	金岡/川島	塩津/竹部
神戸中央JRC	福田夕貴美	小山/八十原	金原/黒中	三田RCJ	佐藤英	多田協史	島崎淳之介
高砂RS	佐野慎介	小西謙一郎	大谷健樹	宝塚RS	忽那一男	寺北佳弘	入江実
西神戸RS	結城/上田	谷本雅彦	平野裕也	西宮R少年団	大谷/山本	南/松田	吉良/中村
西宮甲東JRC	居場嘉教	吉村季洋	横山和明	姫路RS	荒川健二	横谷/長谷川	倉本/神岡
兵庫県RS	竹内/兪	藤永/上條	森/山中	淡路	西村恵治	川端/近江	西村恵治

大会注意事項

1.キックオフ

- キックオフは、原則としてドロップキックにて行う。但し、中学年においては、技術が未達の為ドロップキックができないとレフリーが判断した場合は、パントキックあるいはブレースキックで対応する。
- トライ後のキックオフは、得点したチームからの再開とする。
- キックオフの時間に遅れたチームは失格とする。

2.勝利チームの決定

- 試合はトライ数の多寡によってその勝敗を決定し、コンバージョンは行わない。
- 試合で同点の場合は、大会本部にてレフリー立ち合いのもと、抽選により次回戦進出チームを決定する。
- 決勝戦において同点の場合には、両者優勝とする。三位決定戦も同様とする。
- 試合開始時間でメンバーが揃わない場合は不戦敗とする。但し、相手チームの同意を得て、同人数で練習ゲームを行う事は可とする。
- レフリーは本部でレフリー委員会作成の得点カードを使い、試合終了後には必ずTJ（タッチジャッジ）と確認して本部へ提出する。ラグビーでは、コーチングボックス内に置いてある得点表に自身で記入、本部へ提出する。なお、得点表は自身でコピーし持参する事。
- 得点表は各チームで印刷し、当日持参する。コーチングボックス内に置いてあるバインダーを使い、バインダーは持ち帰らない。

3.選手交代

- 選手交代の際はレフリーに申告する。
- 選手交代は、負傷交代の場合を除いて、前半、後半の中ほどの時間（レフリーが認めた時）、ハーフタイム時、3回の選手交代を認める。それ以外に行う事ができない。一度退出した選手の再度の入場は認めない。但し、負傷が生じた場合で交代選手がいらない場合に限り、その負傷した選手と交代してプレーする事は妨げられない。1選手の1日トータル試合時間については、日本協会ルールを厳守する事。ラグビーは競技規則に準ずる。
- 負傷、出血による一時交代は3分以内とする。過ぎた場合はコーチに確認の上、正式交代とする。ハーフタイム以降も戻れないものとする。但し、人数が足りない場合はその限りではない。

4.敗者戦

- 6年生は新しい試合形式に従って行う。
- 3～5年生も敗者戦も複数開催となるため組み合わせ表に従って、敗者戦を行う。
- シードチームの敗者戦については、シードチームが勝利した場合は行わない。

5.試合開始対応

- 試合グラウンドへの入場は5分前として、グラウンド内での練習は不可。試合開始前には両チーム選手、レフリー、TJは揃って試合会場に入る。（第1試合も同様とする。）

6.試合会場（試合コート）内

- 試合会場内には選手、コーチ、SA（セーフティーアシスタント）、TJ、報道係以外は立ち入り禁止とする。水の補給もコーチが行う。
- コーチングボックス内にはコーチ2名、SA、報道係、リザーブ選手とする。SAは自チームの左側の試合コート中央付近でメディカルキット持参の上、選手の負傷等の事態に備える。
- ラグビーにおいて、幼稚園、小学1年生については、補助としてコーチ1名が試合中にコート内で補助する。
- コート内（芝生、人工芝）は選手、レフリーのみスパイク使用とする。
- SA、TJ、コーチ、報道係は運動靴やアップシューズとする。

- SA、報道係はビブスを着用する。ビブスの管理については本部の指示に従う。
- 試合会場内の水分補給は水のみとする。食事は絶対にしない。
- コーチは、チームジャージまたはスクール名を明記したスタイルでSA、報道係はビブス着用。
- 3年生以上はSAの資格認定書（デジタルも可）を本部に提示し、署名する。
- 2年生以下のSAの資格認定は今年度までは不要とするが、次年度以降は複数エントリーする場合はそれぞれのチームにSA資格認定者を準備する事。
- コーチ、リザーブ選手はコーチングボックス内に待機し、過度の応援や叱咤、相手チームに対する暴言、レフリーに対するクレーム等は厳に慎む事。
- 試合前のドレスチェックは行わない。事前に各チームで爪の長さ、スパイク、ヘッドキャップの確認をしておく。

7.レフリー判定への対応

- レフリーの判定に異議を唱える事は禁止とする。
- レフリーに対してセルフジャッジ、建設的ではない言動や進行の妨げになる場合は、レフリーをはじめ大会役員、実行委員が注意する。
- 注意に従わない場合、大会役員の判断において退場を勧告する。
- 判定やレフリーに対して異議等については、観戦中の保護者にも同様の処分を行う。

8.コーチ、ウォーター係、報道係

- コーチは2名とし、自チームコーチングボックス内から、選手に対して建設的な指示、助言を行える。ヒステリックに怒鳴ったりレフリーの判定に異議を唱える事は禁止とする。
- 建設的ではない言動や進行の妨げになると判断した場合はレフリーをはじめ、大会役員、実行委員が注意する。コーチはそれに必ず従う事。
- 選手への罵声や大声に叱責する事は禁止する。
- ウォーター係がグラウンドに入る場合にはタッチラインから5m以内とする。
- 撮影係はコーチングボックス内とし移動は認められない。また一脚や三脚の使用も認めない。必ずビブスを着用する。
- TJ、SA、ウォーター係、報道係による試合中の指示や助言は禁止する。
- コーチが、インカムやスマートフォンを試合会場に持ち込み外部の別にコーチに指示を与え、試合会場外から試合会場の選手に指示する行為を禁止する。

9.SA（セーフティーアシスタント）

- SAは、各チーム必ず1名を確保する事。（タグラグビーも同様）
- 各チームのSAは自チームの左側に配置し、選手の負傷等に備える事。
- 怪我や事故が発生した場合は、対戦相手のSAも協力して対応する事。
- 重大な怪我や事故と判断した場合、大会役員や実行委員を呼び事態の収拾に協力する事。

10.ウォーター係

- ウォーターブレイク中のウォーター係による給水を認める。但し、ウォーター係は選手に対して指示してはならない。給水は試合進行の妨げにならない様に、タッチラインから5m以内のエリアで速やかに行う。
- ウォーターブレイクをとる場合は試合時間で（レフリーは時間を止めず）速やかに行い、試合時間の延長は行わない。

11.シンビン

- シンビンによる退場時間は試合時間の1/4とする。（3分間の退場）
- シンビン相当の不当なプレーをした選手については、レフリーは試合を止め当該チームのコーチに当該選手を一時退場させる様に伝える。
- コーチは当該選手に指導を行い、落ち着きを取り戻し所定の時間が経過したら再度試合への参加が可能と判断したら、レフリーに伝えてレフリーの合図をもって試合に戻す事ができる。

12.ゴーグルの使用

- WR認定マークの表示付きゴーグルに限り使用を認める。但し、使用にあたっては、レフリー、相手チームに承諾を得る事。

13.アフターマッチファンクション

- アフターマッチファンクションの目的は、試合終了後、両チームの選手、コーチが敵味方関係無くお互いの健闘を称え、尊重しあい、親交を深めあう事であり、ラグビーの「ノーサイド」の精神を培う。また、レフリーや相手チームより試合中のプレーの評価、指摘をもらう事で、正しくプレーするフェアプレイの精神を養い、技術レベルの向上を図る。
- アフターマッチファンクションは3年生以上とし試合後に行う。
- 試合終了後、グラウンドにて整列挨拶後、相手チームへの挨拶は割愛する。
給水後、レフリーの指示に従って、コーチングボックスからすべての荷物をもってアフターマッチファンクションを行う場所へ移動する。
両チームのTJは得点をレフリーと確認する。
- 同点の場合は、先に本部前でレフリー、TJ、キャプテン、コーチ1名による抽選の後、アフターマッチファンクションの場所へ移動する。他の選手やコーチは先に移動する。
- レフリーは両チームのコーチ、選手が揃った事を確認する。
- レフリーは好プレー、印象的なプレー又は危険なプレーに対する助言等を簡潔に親しみ易い言葉遣いと表情で伝える。
- 両チームキャプテンは、自己紹介の後、試合の感想を話す。
- 両チームのコーチは自己紹介の後、試合の感想を話す。特に相手チームの良かったプレーに着目してできるだけ具体的に評価する。
- 選手、コーチは起立、整列してお互いに礼をする。最後に握手。
- レフリーはアフターマッチファンクション後、得点カードを本部に提出する。

レフリー委員会からの注意事項

「参加されるコーチ各位」 「マッチオフィシャルに割当されたレフリー各位」 は必読です

- 1.参加されるコーチで、県大会にレフリーとして割当された方は、レフリー委員会からの連絡・注意事項の内容を必ず確認し、レフリー、アシスタントレフリーとして責任をもって対応して下さい。
例年、割当された試合を勘違いする方、コイントス時間（キックオフ10分前）に遅れる方、自チーム敗退などにより帰宅する方がおられます。
選手たちの晴れ舞台であることを意識して、割当されたレフリーは試合時間の確認を怠らないようにお願いします。
- 2.全ての試合において、試合終了後に担当レフリー主導でアフターマッチファンクションを実施します。（3分程度）
 - ①担当レフリーは大会運営より指定された場所に選手を誘導する。
 - ②担当レフリーから、両チームへ一言コメントする。（コーチング目線は不要です。良いプレーを褒めて下さい）
 - ③両チームのキャプテンから一言コメントして頂いた後で、両チームのコーチから一言コメントを頂く。
- 3.RUGBY UNION競技規則（ワールドラグビー）及び（公財）日本ラグビーフットボール協会発行のラグビー、U-12ミニラグビー競技規則に準じて対応します。また日本ラグビーフットボール協会からの通達内容に準拠したルールを適用して運用します。
- 4.レフリーとタッチジャッジの服装に関しては、公式戦に相応しいウェアを着用して下さい。
 - ①レフリージャージ（背番号があるジャージは着用禁止）、ハイソックス、短パンなど。
 - ②タッチジャッジ（TJ）に関しては、ウインドブレーカーなどの防寒ウェアの着用は認めます。
 - ③スパイクは、レフリーのみ着用。タッチジャッジはアップシューズを必ず着用して下さい。
- 5.本大会は実施要項に記載されている「競技時間」および「運営規則」に則ります。
 - ①今大会は1部の試合を除いて、レフリー、AR2名のMO制を採用します。ARを担当される方はフラッグイン、判定におけるレフリーとの協議等が可能となります。特にプレー外でのファール等に注視してください。
 - ②試合開始10分前にコイントスを実施します。両チームとも、キャプテン、コーチの2名タッチジャッジが当該である場合、タッチジャッジ含めての3名が揃って、各会場本部前に集合して下さい。コイントス時間に遅れた場合は不戦敗にすることがあります。担当コーチは時間遵守するようにお願いします。
 - ③また試合開始時間に遅れた場合は、失格となります。
 - ④シンビンによる退場時間は、試合時間の1/4とします。（U-10、U-12とも3分間の退場）
 - ⑤レフリーに対する暴言、コーチによるセルフジャッジ、過度の野次や罵声など、試合中に現認した場合、レフリーおよび大会運営者は試合を中断させ、該当者を退場させます。（保護者も含めて退場して頂きます）
- 6.選手の安全対策として、試合中に負傷した選手がいた場合は直ちにセーフティーアシスタント（SA）が処置して下さい。重症であればSAはレフリーにプレー中断を呼び掛けて下さい。
- 7.SAとTJは有資格者を選任し、職務を全うできる方を選出して下さい。職務不履行の方を現認した場合、レフリーおよび大会運営者から注意します。2回目の注意があれば、子供達の安全を確保できない、公平公正な試合運営ができないと判断し、当該者の交代を命じます。